

大船渡発

『復興のともしび』カキ収穫



大震災以降に養殖を始めた赤崎町「中赤崎カキ組合」の漁家が水揚げ作業を行いました。震災前は、刺し網や定置網漁を行っていましたが、

漁船や網が流失。農業用機械や小型船舶用エンジン等のメーカーとして知られるヤママーから養殖施設などの支援を受けて組合を結成し、カキ養殖を始めたもので、小型船に乗った組合員15人が次々とカゴに入ったカキを海から引き上げていました。去年、この地区では貝毒などの影響で、カキを出荷する事ができず、今年が初出荷となります。組合では、「殻付き生食用」のカキを『復興のともしび』というネーミングで、全国に向けて出荷を始めるという事です。(10/24 ニュースエコー)



陸前高田発

新キャピタルホテル1000

東日本大震災で被災した陸前高田市の観光ホテル、「キャピタルホテル1000」が、高台に移転して再建を果たし落成式が行われました。新しいキャピタルホテル1000は今年4月に着工。総工費およそ8億6000万円をかけ高台での再建工事が進められてきました。鉄骨3階建てで、海が見えるツインルーム40室のほか結婚式場や大浴場、レストランなどがあります。来月から宿泊客の受け入れを始めることになっており、陸前高田の観光をけん引するホテルとして大きな期待が寄せられています。(10/25 ニュースエコー)



盛岡発 ふるさと三陸オリジナル丼グランプリ

「タコ丼」がグランプリ

被災した沿岸部の仮設住宅に住む人たちがアイデアを出し合い考案した、ふるさと三陸オリジナル丼グランプリが盛岡で開かれました。この催しは仮設住宅に住んでいる人達に地域の絆を深めてもらおうと、IBCが主催し今回初めて開催したものです。沿岸部4地域から10チームおよそ200人が参加し、ホタテやサンマなど地元の食材を使ったオリジナル丼を来場者に振る舞いました。来場者の投票の結果、陸前高田の財当仮設住宅が考案した「タコ丼」がグランプリに選ばれ、来月13日に東京のアンテナショップいわて銀河プラザで限定販売される予定です。(10/26)



盛岡発

「いわて復興塾」設立

復興のための知識、情報の一層の共有化を図り、復興を加速させるための学びの場にしようと、達増知事が塾長を務めるいわて復興塾が設立されました。復興塾では、毎月1回、陸前高田市の戸羽太市長や、劇作家の平田オリザさんなど、県内外から様々な分野の専門家を講師として招き、講演や意見交換が行われます。初回は12月15日に予定しています。(10/28 ニュース)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)



今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、「新キャピタルホテル1000」について現地から伝えてくれました。高台に移転して待

望のオープンとなったもので、客室からは広田湾と高田松原跡地を望むことができ、交流拠点として、高台から陸前高田を照らすともしびとして、期待されています。支配人の人首ますよさんは「高田の現状を伝えると共に、お客様に元気と癒しを提供していきたい。」と話していました。(10/30)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122